

■平野国臣 志士。真木和泉とともに尊攘運動の先頭に立つも、挫折を重ね、最後は[新撰組]の手で処刑された。

ひらのくにおみ

シボト事件・1828＝ 筑前国福岡城下地下行下町で、福岡藩足輕の次男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 9歳：

天保改革始・1841＝13歳：大頭役所属吏小金丸彦六の養嗣子となり、

阿部正弘首座1845＝17歳：普請方属吏となり、  
孝明天皇・・・1846＝18歳：はじめて江戸へ赴いた後、

・・・・・・1848＝20歳：その娘と結婚、

領内宗像神社造営掛役を経て、  
ペリー来航・1853＝25歳：

安政大地震・1855＝27歳：長崎諸用間次定役の属吏となり勤仕。この間、\_会沢正志斎の「新論」に感奮して喫煙を絶ち、また支藩秋月の坂田諸遠に啓発されて武家故実の研究につとめ、

蕃書調所・・・1857＝29歳：\_藩主黒田長薄に犬追物復興を直訴し塾居一ヵ月になって、平野姓に復帰。以後、剃刃を用いず惣髮体となり、また王朝の風を慕って太刀を用い、烏帽子・直垂の風を好むようになる。

五ヶ国条約・1858＝30歳：\*脱藩上京、西郷隆盛らと交わり、<安政の大獄>の追及を受けた月照の入藩を斡旋、ともに鹿児島に入ったが、薩摩藩の庇護を得られず月照の水死に至る。その後、潜行して帰国、ついで上京、また備中連島に潜伏、下関の白石正一郎宅にかくれ、さらに薩摩・肥後・下関を転々する。

桜田門外変・1860＝32歳：久留米郊外水田に塾居中の真木和泉(保臣)とはじめて面会、決起をよびかける。

生麦事件・・・1862＝34歳：\*島津久光の上京を機に薩摩藩尊攘派および真木和泉ら浪士たちと挙兵・攘夷断行を企てたが、<寺田屋騒動>で挫折。長薄が久光に自重を促すとの風説が伝わると、長薄参府の途中播磨大蔵谷にこれを諫止し、長薄の帰国となり、扈從帰国の途中藩吏に捕縛され福岡に投獄され、

8月18日政変 1863＝35歳：\*朝旨により出獄、徒罪方属吏となったが、上京の命を受け、学習院出仕となる。中山忠光一行の天誅組挙兵鎮撫の命を受け大和五条に赴いたが失敗。この間京都では<八月十八日の政変>によって、三条実美および長州藩勢力が一掃されたため、避けて但馬に入り、天誅組応援の挙兵を計画。ついで三田尻に赴いて三条らに謁し、長州藩の支援を求めたがその容れるところとならず、7卿の1人沢宣嘉を擁して但馬に走り、生野代官所を襲撃占拠、論告文を発表した。しかし近隊の諸藩出兵の報あり、この夜、沢の脱出に会って兵を解散、城崎に走る途中豊岡藩士に捕えられ投獄される。

禁門の変・・・1864＝36歳：姫路藩獄舎を経て京都六角獄に移される。<禁門の変>の騒擾に際しての江戸幕府大目付永井尚志・京都東町奉行小栗政寧らの判断で、近藤勇ら新撰組の手により未決のまま処刑される。